2 就職状況

大卒就職率が2.0 ポイント低下 ——厚労省・文科省調べ

厚生労働省と文部科学省は5月18日、2021年3月の大学等卒業者の就職状況について共同で調査した結果を公表した。それによると、大学生の4月1日時点の就職率は96.0%と、前年同期比で2.0紫低下した。また、専修学校(専門課程)が大きく落ち込み同5.6紫低下の91.2%となっている。厚生労働省は専修学校の落ち込みについて、「新型コロナウイルス感染症が宿泊、観光、航空、服飾、デザイン等の求人に影響した。それらを目指していた学生にとっては、就職が厳しかったのではないか」と指摘している。

同日に厚生労働省が公表した3月末 現在の高校新卒者の内定率は、前年同 期比で0.254低下の99.1%、内定者数 は同12.9%減少の約14万5,000人と なっている。

大学等卒業者の就職状況

高専以外は就職希望率が低下

調査は1996年度から始まり、厚生 労働省と文部科学省が共同で10月、 12月、2月、4月の年4回、実施・ 集計しているもの。各大学等で所定の 調査対象学生を抽出した後、電話・面 接等を通じて就職希望の有無や内定状 況等について調査している。調査の依 頼先は両省で抽出した全国112校。内 訳は国立大学が21校、公立大学が3校、 私立大学が38校、短期大学が20校、 高等専門学校が10校、専修学校(専 門課程)が20校。対象人員数は大学、 短期大学、高等専門学校の計5,690人 と専修学校(専門課程)の560人で、 合わせて6,250人となっている。

調査によれば、2020年度(2021年

3月)の大学等卒業者において、就職を希望する割合(就職希望率)は大学が前年同期比1.054低下の76.0%、短期大学が同5.054低下の78.7%、高等専門学校が同2.354上昇の60.3%で、これらの合計では同1.254低下の75.1%となった。また、専修学校(専門課程)は同1.354低下の87.1%で、これらを合わせた総計では同1.154低下の76.2%となっている。

専修学校就職率は5.6ポイント低下

就職希望者に対する就職者の割合 (就職率)は、大学が前年同期から2.0 類低下の96.0%、短期大学が同0.7数 低下の96.3%、高等専門学校で横ばいの100%となり、これらの合計では同1.7数低下の96.3%となった。また、専修学校(専門課程)は同5.6数低下の91.2%で、これらを合わせた総計では2.0数低下の95.8%となっている。

大学生の就職率はリーマン・ショック後の2011年に過去最低となる91.0%を記録して以降、回復軌道をたどり、2018年には過去最高の98.0%を記録した。その後も高水準を維持していたものの、今回調査では前年同期から2.0季の落ち込みとなった。専修学校も同様の動きをみせていたが、今回調査では同5.6季減少と大きく落ち込んだ。

大学生の就職率は男女差が拡大

大学生の就職率について詳しくみる と、男女別では男子が前年同期比2.5 気低下の95.0%に対し、女子は同1.3 気低下の97.2%と、女子の方が2.2紫 高い。2013年以降は一貫して女子の 方が高い就職率となっているが、女子が2型以上高くなるのは調査開始以来はじめて。

また、国公立大学が同2.3紫低下の95.9%に対し、私立大学は同1.8紫低下の96.1%となっている。男女別にみると、国公立大学は男子が同4.6紫低下の93.3%に対し、女子は横ばいの98.6%。私立大学では男子が同1.9紫低下の95.5%に対し、女子が同1.6紫低下の96.8%となっている。

文系が理系を上回る

文系・理系(大学のみ)で分けてみると、文系が前年同期比1.8 常低下の96.0%に対し、理系は同2.6 常低下の95.9%となっている。文系の就職率が理系を上回るのは、2018年以来で今回が2回目。

高校・中学新卒者の就職内定状況

高卒内定者数は12.9%の減少

一方、厚生労働省が取りまとめた「高校・中学新卒者のハローワーク求人に係る求人・求職・就職内定状況」によれば、高校新卒者の就職内定率は99.1%と、前年同期比で0.2季の低下となった。内定者数は同12.9%低下の約14万5,000人となっている。求人数は約38万6,000人で同20.2%の減少、求職者数は約14万6,000人で同12.7%の減少となっている。

中学新卒者の就職内定率は84.7%で前年同期比0.35の上昇となった。 内定者数は同24.3%低下の343人となっている。求人数は1,150人で同32.2%の減少、求職者数は405人で同24.6%の減少となっている。(調査部)